



進む自動車の電動化と ダイカスト産業への影響

座長 菊池 政男 (株)ナノキャスト



特別講演 1

自動車用燃料・エネルギーの脱化石化と 電動車展開シナリオの提示

愛知工業大学工学部客員教授(工学博士) 部品製造メーカーの顧問を兼任(元トヨタ自動車株式会社)
藤村 俊夫 氏

2019年9月に国連の気候変動サミットにおいて、先進国、新興国の大半は国連が提示する2030年までに現状の45%まで低減、2050年には排出ゼロに向けコミットしました。すぐにでも実効のある対策を講じ、10年以内に半減近くの目標が達成できないと、平均気温は産業革命以降1.5°C上昇し人間の手ではどうにもならない危機的な状況に陥ります。

運輸セクターはこれまで100%近くを石油系燃料に頼ってきました。中でも4輪車はガソリン／軽油を主要な燃料とし、世界のCO₂排出量の18%を占めます。お客様のニーズ、CO₂削減効果等をふまえたうえで、エンジン車(燃料多様化を含む)、次世代車(HV、PHV、EV、FCV)の今後の展開シナリオを提示し、それらに関わる製造業が危機感を持ってCO₂削減に取り組む必要性を解説します。

特別講演 2

自動車の動向とダイカストへのニーズ

トヨタ自動車株式会社 モノづくり開発センター 素形材技術部 ダイキャスト技術室長
須田 智和 氏

自動車業界は、CASEに代表される『100年に1度の大変革期』の時代に突入しており、脱炭素化に対応するための電動化や軽量化のニーズが高くなっている。クルマへの期待はそれにとどまらず、より多くの人々に移動の自由や各種サービスを提供することで、生活を豊かにできるモビリティへ進化させる動きも見えてきた。このような環境下で、クルマを構成する材料や工法の適用範囲の変化と新たな可能性が模索されるが、高い生産性を強みとして長年発展に寄与してきたダイカスト工法が、これからのモノづくりを支えるためにDXやCNへのチャレンジと共にどのような付加価値を提供できるか皆様と一緒に考えて行きたい。

特別講演について、コロナウイルス感染状況により中止や人数制限を行う場合があります。詳細は10月下旬ホームページ等でご参加方法をご確認の上、ご来場ください。